



学校便り「尚徳」12月号
第484号
鳥取大学附属小学校
平成24年12月13日
<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>
題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



メディア暴露と発達

校長 小枝 達也

先日、ある市の教育委員会メディア対策推進委員のみなさまに「メディア暴露と発達」というタイトルで話をする機会がありました。ひと頃、テレビやゲームに長時間暴露されるとゲーム脳になるという話が流行りましたが、それを信じておられたようです。最近になってゲーム脳の話も下火になり、自分たちはどういうスタンスでメディア対策に取り組んだらよいのか迷いが生じたようでした。「本当のところはどうなの？」という問い合わせを受けましたので、最近の論文をレビューして、データに基づいた話をしてきました。かいつまんでご紹介します。

メディア暴露と発達については、世界各国で多くの研究がなされていますが、「こうだ」という結論は出ていないというのが実情です。ただ2歳前にテレビを単独で見せすぎると、言葉の発達や集中力に悪影響が出る可能性があるという論文が多いようです。この悪影響の持続性についてはよくわかっていません。一過性かもしれませんし、しばらく影響が残るのかもしれません。保護者と一緒に内容について話をしながらテレビを見る、あるいはテレビ番組を吟味すると悪影響は軽減するという報告もありま

す。「衝動的な行動」にとって教育的な番組は好ましく、暴力的な番組はよくないという結果も出ています。

したがって、要は見せ方、与え方次第ということになりましょうか。親子で仲良くテレビを見て、笑いあったり共通の話題にしたりという範疇では問題はなく、テレビやゲームに夢中になって、親子のコミュニケーションが減ることが問題なのでしょう。その逆もしかりです。親が携帯端末に夢中になって、コミュニケーションが減ることもまた好ましくありません。

注意が必要なのは、こういった影響は子ども一般の **well-being**（よりよく生きる）での話であるということで、病気や障害の原因になるわけではありません。つい最近、文部科学省が発達障害と思われる子どもの調査をしました。6.5%だそうです。これは10年前の調査結果である6.3%と変わっていません。私の感触も増えていないというものでしたので、ホッとしています。子どもがメディアに影響されて発達障害が増えるわけではないことを、文部科学省が証明してくれたことに心から感謝と敬意を表したいと思います。



【人権教育参観日】



11月22日、人権教育参観日を行いました。

1年生の「すてきなじぶんすてきなともだち」では、友達やお家の人からの「自分のすてきメッセージ」を読み、一人一人のよさに気づき、自分は家族から大切にされているという喜びを共有することができました。2年生の「ことばのまほう」では、言葉一つで人とつながるこ

とも、人を傷つけてしまうこともあるということを学び、これからの言葉の使い方について考えました。3年生では、保護者へのインタビューを通して、生活をよりよくするためのものが身の回りにはたくさんあることに気づきました。4年生では、福祉体験をもとに「心のバリアフリー」について考えました。5年生の学習「世界の人々の生活を知ろう」では民俗学の本「地球家族」を使って各国のくらしの様子を見ながら「あってよいちがい」と「あってはならないちがい」について考えました。6年生は、鳥取県原爆被害者協議会の講師を招き、体験談や思いを聞かせていただき、平和について意見交流をすることができました。このように、学年の

発達段階に応じ、人権尊重の実践的態度を育てる学習を公開しました。

人権講演会では、中永廣樹前鳥取県教育長に「今、子育て・教育に必要なこと」と題し、講演をしていただきました。見ているようで見えていない子どもたちの実情と心に私たち大人がどう向き合っていくか、具体的な事例をもとにお話がありました。

人権問題を身近な問題として捉え、相手の気持ちを考え思いやることの大切さについて、家庭でも学校でも継続して考え、よりよい社会の実現に力を合わせていきたいと思います。



